

令和6年度あま市平和体験学習報告

終戦から79年の歳月が流れ、悲惨な戦争の記憶が次第に薄れつつある現在、戦争の悲惨さや平和の尊さを学び次世代へ継承していくことを目的として、平和体験学習を行いました。

8月7日(水)・8日(木)の2日間、市内中学生の代表10人は、平和推進事業の先進地である広島市を訪れ、広島平和記念資料館の見学、各中学校の生徒が平和を祈念して折った千羽鶴の献納、被爆体験講話などを通して戦争の悲惨さや平和の尊さを学びました。

貴重な体験をしてきた生徒の感想を紹介します。



鈴木 琉生すずき るい (七宝中学校3年)

原爆が投下されてから79年が経った今、僕は初めて広島島の地を訪れました。近代化された街並みとは対照的に、資料館で見た被爆者の遺品や惨状を示す写真はあまりにも悲惨で恐ろしく、言葉を失いました。

また被爆者の高齢化により「広島」の原爆を伝えるのが難しくなっていることも知りました。世界で唯一の被爆国である日本。戦争のない平和な未来を実現するために、若い世代である僕たちが原爆の恐ろしさを伝えること。それが大切な使命だと今回の体験で気づかされました。

渡邊 修多わたなべ しゅうた (七宝中学校3年)

僕は被爆者の方に伝えていた、被爆による後遺症の悲惨な症状に胸が締めつけられました。その方によると後遺症によってよく微熱が出たり、脈が遅かったりなどして、何十年も日常生活に苦労したそうです。このような悲惨な被害を二度と繰



り返さぬよう、これからの社会を担っていく私たちが平和な世界を実現させなければならぬと強く確信しました。その第一歩として、まずは多くの人へ今回学んだことを伝えていきます。

小川 実莉おがわ みり (七宝北中学校3年)

原爆が落ちた日、広島は赤く染まり、黒い雨が降りました。この日、十四万人が亡くなり、その内七万人は今も名前が分からないままです。

被爆により働きたくても働けない、遊びたくても遊べない人がいました。資料館には三輪車や袖を通すことが一度もなかった着物が残っていました。当たり前の日常が一瞬で失われる恐怖と悲しさで胸が痛くなりました。私はこの体験を通して私たち若い世代が原爆について正しく知り、核兵器廃絶を訴え続けていくことが大切だと思いました。

戸谷 桜大とや おうだい (七宝北中学校3年)

原爆の脅威は、まだ終わっていない。僕は広島で過ごした二日間で改めてそう感じました。

被爆者の方からのお話を聞き、当時あった被爆者の人たちへの差別や、原爆小頭症という胎児への被害も深刻であったと知りました。

当たり前だと思い、失われるなど思ってもいない世界は決して当たり前ではなく、その脅威は刻一刻と迫っていることを再認識しました。

「地球最後の核兵器が解体された」という二ユースを実現させる義務が、僕ら若い世代にあると思いました。

小鹿 日楓おじか はるか (美和中学校2年)

79年前の8月6日午前8時15分、原子爆弾が広島に投下されました。

平和体験学習以前、この一文はただの歴史の一部に過ぎませんでした。しかし、学習を通じて目



にした写真や遺品、そして被爆者の魂の叫びが心に深く刻まれ、今ではその一文を読むたびに胸が締めつけられるような思いがします。戦争の残酷さを伝えることが難しくなっている今、私たち一人

ひとり平和のバトンを次の世代に繋いでいくことが重要だと感じました。

山口 恋音（美和中学校2年）

私は平和体験学習を通して、戦争の悲惨さや平和の大切さを学ぶことが出来ました。

テレビなどでは聞かない「戦争」という言葉は、被爆者の方の話・資料館の見学で想像する



ことも難しいような信じられない出来事だと分かりました。そして、二度と起きてはならないことだと強く感じました。こういった貴重な機会で学んできたことを、多くの人や次の世代へと伝えていきたいです。

伊藤 瑠花（甚目寺中学校3年）

私は、今回の平和体験学習で当時三歳だった被爆者の話を聞きました。

破壊された建物やひどいけがを知り、原子爆弾の威力を痛感しました。原子爆弾が、投下された後も長い間苦しみ続け、毎日必死に生活していた姿

にとても胸が苦しくなりました。

被爆者の方の幼い頃の記憶が無いのは平和だった事の証。という言葉に自分の幸せさに気づき、平和な世界を繋ぐ努力をしたいと思いました。

加藤 風海（甚目寺中学校3年）

平和体験学習をする前では、原爆について知らなかったんだなと思いました。写真を見れば、あたり一面な

もなく、ほとんどの人が焼きこげていました。他にも遺言や日記などを見ていると、苦しい中みんなが必死に生きていました。被爆者のお話を聞いて

ても、苦しい中でも必死に生きて、今は、楽しく生きていました。前向きに生きるのとは大不相同なことは二度と起きてはいけな



大橋 慶治朗（甚目寺南中学校3年）

僕は広島平和体験学習を通して、戦争の悲惨さ、恐ろしさを学びました。被爆者の方の話を聞いて、けがや死者

の人数、当時の広島の様子が想像でき、今では感じることでできない程の辛さ、怖さがありました。そのような想いをこれからは誰にもさせないために、戦争は絶対に起こしてはいけな

吉川 桜羽（甚目寺南中学校3年）

今、世界では平和を脅かす戦争や紛争が後をたちません。それにより、毎日尊い命が失われています。私

たちはその状況を画面越しに眺めているだけで良いのでしょうか。世界があと一歩道を踏み外せば私たちの望む平和はありません。それなのに、まるで他人事のように思うのは違うのではないのでしょうか。世界に恒久の平和を実現させるために、日本国民の一人として何か行動を起こさなければならぬと私は思いました。広島で感じたことを多くの人に伝えていきたいです。

「平和の署名」を届けました

「平和の署名」にご協力いただきありがとうございました。集まった813筆の署名は平和体験学習で広島市を訪れた中学生により広島平和記念資料館へ届けました。

問合先 人事秘書課 ☎444・1713
FAX444・1351

